



「88新体操ワコールカップ国際演技会富山大会」に特別参加の有機高校新体操チーム

# みんなでひらこう、豊かな新世紀……P.1

富山県知事 中沖 豊

エッセイ/武内 徹

「豊かさ・さりげなさ」—— 表紙2

特集/トヤマ・イメージアップ・フォーラム —— P.6

PIN UP TOYAMA

秋曼陀羅 —— P.12

トリップ県政

富山県職業能力開発カレッジ —— P.14

ふるさとみである記

山田村 —— P.16

ことしの地価調査 —— P.18

シリーズ：とやま心象⑧

豊穰を占う神事——網引き —— 表紙3

TOYAMA PREFECTURAL REPORT

県広報

とやま

1988  
No.238

11

# みんなでひらこう 豊かな新世紀



富山県知事 中沖 豊

現代は、「激動と混迷の時代」です。「地方競争の時代」でもありません。今こそ、新世紀に向けて県づくりの基礎をしっかりと固めなければならぬ重要な時期だと思います。

富山県が、文字どおり富が山とある県、そして心の富も山とある県になるように、今後とも「知恵と汗」を出し、一生懸命頑張っていくつもりです。

県民の皆さまの一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

このたび三期目の県政を担当させていただくことになりました。愛するふるさと富山県の発展と県民の皆さまの幸せを願って、引き続き全力を尽くしてまいります。

県政をすすめていくにあたり、私は次の三点を基本にしたいと存じます。

第一は、「県民本位の県政」です。

申すまでもなく県政の主人公は「県民」の皆さまです。県政のすみずみにまで温かい心がかよう真に県民のための県政をすすめます。

第二は、「開かれた県政」です。

「万聞万語」の精神に徹し、県民の皆さまとの対話を行い、県民による県政をすすめます。

第三は、「計画県政」です。

新しい県民総合計画を策定し、県民の皆さまにわかりやすく、先見性のある県政をすすめます。

これらの三つを基本姿勢として、全国に誇ることでできる素晴らしいふるさと富山県の実現をめざすとともに、二十一世紀に向けて、日本一の「健康・スポーツ県」、「花と緑の県」、「科学・文化県」の三つの目標に挑戦してまいります。

そして、このような県づくりの目標を達成するために、引き続き「人づくり」「郷土づくり」「産業づくり」の三つの施策を積極的にすすめます。特に、県立四年制大学の創設、中央病院の改築、二〇〇〇年国体開催のための総合運動公園の建設の三大プロジェクトをはじめ、若者や女性、高齢の方々などが、生き甲斐をもってくらすことができる魅力ある地域づくりなどに、全力をあげて取り組んでまいります。



エッセイ

## 豊かさ・さりげなく

高岡市民病院精神科部長 武内 徹

「週刊朝日」が取材に来ると電話があった。時々「県民性」のことで取材されるが、ほとんど地元のマスコミだったので、私はドギマギしてしまった。間もなくその人は私の前に現われ、こうしゃべり出した。「今年の二月に労働省が勤労者生活の豊かさ度を調べたら、富山県が全国第一位なんです。それで実際に調べに来たわけです。たしかに数字のとおりなんです」と「持家率」や「高校進学率」や「名水」のことまで、足で調べたナと思わせる位、たみ込むような口調で話しかけてきたのである。そして、彼は最後にこういった。「豊かだなという実感がしないんですね」。私は軽くイナされた感じがした。

どちらかといえば、彼が述べたような視点から富山県を考えてきた私には、すぐに切り返す言葉が見つからなかった。「『豊かさ』という事についてあなたはどのように考えているのですか」と、少しおし返すのが精一杯だった。

一時間半ほど、彼はとうとうと語り、私は私なりの考えを述べたのだったが、飛行機の時間がありますからと彼が去った後に残ったのは、「判定負け」のようなほろ苦さだった。さきにも述べたように、私は今まで彼のような視点から富山県を考えてきた。それなのに、あんな風にいわれると、なんとか反論してやるぞという気持ちがひくひくと湧いてきた。そこで広報課にお願いして、根拠になった資料を送っていただいた。そこから得た反論は多分に固苦しいので、ここには別のことを書く。

取材の結果がグラビアになって出ていた。広い家。ずらりと並んだ自家用車。大広間に坐る夫婦。これらの写真を見る限り、豊かな感じがする。では、なぜ彼が「実感」として豊かさを感じなかったのだろうか。

写真をながめているうちにこう考えた。富山県民は「地の人」と「旅の人」に対する接し方が異なる。この場合、「週刊朝日」という気の張る「旅の人」が訪ねて来たのである。取材には、緊張して、さりげなくというよりむしろ素っ気なく対応したのではあるまいか。いや、「こんなくらの家ならいくらでもありますよ」と答えたに違いない。こういう態度が度重なれば、相手は豊かな感じを感じにくくなったに違いない。

しばらくして、本当の豊かさとはさり気ないものではなからうかと気がついたとき、雑誌に出ていた私のコメントのニュアンスが違っていったことが気にならなくなっていた。

# 富山の社会福祉を熱心に視察

——アジア社会福祉行政官研修



インドやタイなどアジア諸国で福祉行政に携わっている方々八名が五日間にわたり県内の施設を視察しました。

これは、厚生省が国際技術協力の一環として行っているもので、一行は東京での研修のあと地方研修のため来県しました。

リハビリテーション病院や老人ホームなどを視察した一行は、「地方も中央も同じレベル」「進んだ設備にビックリしました。」「民生委員制度を導入したい」と感想を述べていました。また、保育園では、園児の歌と踊りによる歓迎に大喜びでした。

各施設の職員や民間福祉活動者との意見交換も行われ、幅広い面から社会福祉制度への理解を深めました。



# 緑あふれるふるさとづくり

——第四回県育樹祭



十月八日、「手をつなぎ、ふやす緑にひらける未来」をテーマに、県育樹祭が開かれました。会場の上平村西赤尾のタカコンボスキー場のふもとには、林業関係者やみどりの少年団など約千三百人が集まりました。

初めに、田中副知事が「健全な森林づくりを進めるため、積極的に育樹に参加しましょう」とあいさつ。このあと、育樹活動の功労者への表彰、砺波みどりの少年団の活動発表などが行われました。

続いて、地元上平村青年団の竹原昇さんと中谷裕子さんが「緑豊かな郷土づくりと森林・林業の発展をめざしてまい進することを誓います」と力強く宣誓。その後、記念育樹にうつり、晴れわたった秋空のもと、全員が杉の枝打ちや、樹木の支柱立てなどに汗を流しました。

# 健康の秋、赤ちゃんからお年寄りまで

いきいきとやま・第一回健康と長寿の祭典(10月8日~9日)

# 好奇の心で、いつでも どこでも だれでも なんでも

———県民カレッジ、オープン



十月一日、生涯学習の新しい拠点として、富山県生涯学習カレッジが開学しました。教育文化会館で開かれた記念式典では、中沖知事や吉崎学長があいさつ。次いで、受講生を代表して三輪真規子さんが喜びの言葉を述べました。その後、とやまの生涯学習のあゆみが紹介され、ノーベル物理学賞受賞者の江崎玲於奈博士が記念講演をしました。

県民カレッジは、「生涯学習センター」を展開させたもので、ますます充実した講座を開きます。家庭で居ながらに学べるテレビ放送講座も始めました。また、講師や視聴覚教材、催し物などの学習情報の提供、学習相談にも応じます。どしどしご利用ください。

**富山県生涯学習カレッジ**  
富山市舟橋北町七一(教育文化会館内)

☎0764-41-6135  
32-6420

「日本一の健康県」と「いきいきとした長寿社会」をめざして、健康と長寿の祭典が県民会館で開かれました。

八日の、「二十一世紀の長寿社会を考える」シンポジウムでは、「すこやか」「はたらき」「すまい」「いきがい」について熱心に話し合われました。その後、鈴木健二さんが記念講演。巧みな話術に超満員の客席は、笑いと涙に包まれました。

九日には、老人クラブ大会、老人若返り祭りが行われ、お年寄りは弁当片手に演芸会気分て仲間の歌や踊りを楽しんでいました。

また、わがまちの健康づくりについての活動発表、赤ちゃん体操教室や育児相談、手づくり料理教室も開かれました。

しめくくりは、立川志の輔さんによるトークショー。笑いの連続に皆さん大いにストレスを発散しようです。

なお両日、体力測定、健康相談、試食などの健康づくりコーナーや、老人クラブ作品展も開かれ、人気を呼びました。

つくろい、つたえよう あなたの富山

# 新しい富山の姿を求めて

あなたにとって富山とは？とやまにどんなイメージを持っていますか？

県では、五年前から、富山にゆかりの

方々にイメージディレクターをお

願いし、様々な提言を受

けて、イメージアップ

をすすめてき

ました。

# トヤマ

# イメージアップフォーラム

しかし、県民の皆

さん自らの理解がなければ、富

山のイメージアップ、富山のPR、さらに富山のアイデンティティを確立することはできません。県では、二十一世紀に向けて魅力あふれる

豊かな富山県をめざすイメージアップ作戦の一環として、九月十八日、イメージアップフォーラムを開きました。そこでは、四つの分科会と

全体討論会を通し、県民の皆さんとイメージディレクターが富山のイメージアップについて語り合いました。

## 第一分科会●国際化と情報

デザイナーディレクター

長澤 忠徳

日本開発銀行広島支店次長兼松江事務所長

竹村 弘

## 第二分科会●富山の女性

作家

木崎さと子

## 第三分科会●遊・文化

作家

辺見じゅん

株ツク夕代表取締役

佃 義範

## 第四分科会●まちづくり

元NHK富山放送局長

山田 允夫

漫画家

藤子不二雄A

(コーディネーター)建築家

稲葉 実

(総合同会)北日本新聞論説委員長 金川 正盛

## 全体討論会

# とやまは、動き始めよう

金川 まずは、各分科会の内容をお話しいただきましようか。

### 〈第一分科会は、「国際化と情報」〉

長澤 本日の討論で次のことを感じました。まず、国際化は、国や文化を越えたマインドを個人が持っているのと成立しないということをごさんわかっていてということ。第二に、ボランティアで外国人との交流をするなどすでに行動を起こしている人がいること。第三に、実現する時の困難に立ち向かっている人もいるということです。つまり、富山で国際化は、着実に進行し始めているということです。

問題は、連れてくる手段、泊める場所等、国際化のための環境整備ができていないこと。また、そういう活動をしている人をミヤラクモンとして差別的な目で見ることです。国際化の土壌がないのは、県人同士のつきあいがへたなせいではないでしょうか。県も、県民の理解力を深めるための取り組みが必要です。

### 〈第二分科会は、「富山の女性」〉

木崎 大きなテーマとして出てきたのが「遊び」の問題です。富山にも女房族の反乱が押し寄せていて、女性自身にもっと遊びたい、役割を生きているのではなく、自分を生きたいという意識が

強くなっています。男性も意識を変えないと大変です。遊びは個人に属することですが、女性の場合は、行政に名目を付けてもらうことで最初の突破口ができます。こういった集まりをきっかけに、名刺なしに一人の人間として話し合えるサロンが始まればいいのではないかと思います。

### 〈第三分科会は、「遊・文化」〉

辺見 富山県は、文化人が少なく、働け働けと遊びを否定する県だと思っていました。今日の感じでは、遊びを語るにも一生懸命になるすごい県です。新しい機運が始まっているということを感じました。今日だけで終わるのでなく、仲間意識を持ってユニークなコミュニケーションを続けていって欲しいですね。

### 〈第四分科会は、「まちづくり」〉

稲葉 今日、ミヤラクモンの花が咲いた感じがありました。ミヤラクモンでない、まちづくり

## ●各分科会

外国からの期待は非常に大きい。外国企業と合併したら、たくさんの方がやってきたが、一企業としては応じきれない。(第一分科会より)

行政のバックアップが欲しいが、窓口が細分化され、国際知識を持つキーマンもないため、問題処理の相談ができない。(第一分科会より)

農業研修生を受け入れたら、「タダの労働力を使っている」と陰口をたたかれた。(第一分科会より)



稲葉 実氏





藤子不二雄A氏

には取り組めません。まちづくりは、人づくり。ロマンチストとそれを支える人の存在が必要で

なかやる、あるいは、新しい時代に向けて動いているという感じを持たれたようです。では、富山のイメージアップを図るには、どうしたらいいでしょうか。

# なりふりかまわずに走りまわろう

藤子A ぼくは、二十歳で東京しましたが、富山出身ということにコンプレックスを感じており、特に富山弁をマネされると非常に腹が立ちました。その頃の富山のイメージと現在のイメージでは、すごく変化していると思います。例えば、持ち家率日本一とか、数値による認識が強いですが、でも、数字ばかりを強調しすぎると、誤った富山のイメージを与えないかと心配です。富山は、高度経済成長中の日本に似ています。富山人は、日本人の典型のようです。あまり行きすぎると、ジャパンバッシングならぬ富山バッシングを受けるのでは。もっと遊びに目を向けるべきです。

山田 富山は、私にとって心のふるさとです。富山は、三千メートルの立山連峰を背景にしており、他の都市では得られない心の安らぎを感じます。高いビルや舗装道路などは、そういうイメージから遠い気がします。分科会で報告なさった都市化・現代化を合言葉にしている人、生まれた町を劇場としてまちづくりをやっている方々とは、相反するかもしれませんが、東京の機能一点張り、物質文明一点張りのハードの面ばかりを強調したパターン

木崎 私は、富山弁が好きです。いつも「小説の中の会話の富山弁がきれいですね」と言われます。なぜ方言にコンプレックスを持つのか不思議です。藤子A コンプレックスは、昔の話で、今は大丈夫です。(笑)

佃 県外へ出て結婚してお子さんを持っている方がたくさんおられます。富山出身二世にバスポートなどを発行して、ふるさとへ招待すればどうでしょう。東京周辺の暮らしは、通勤に時間がかかるし、公共施設も思うように使えず、貧しいものです。富山にたくさんあるスポーツや文化等の公共施設を活用して、大都会の人に楽しんでもらうようなイベントを企画すれば、



佃義範氏



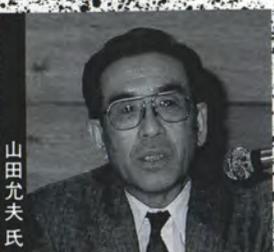
長澤忠徳氏

富山に来る人が増えるのではないのでしょうか。長澤 最近のマスコミの富山県の紹介の仕方を見ると、室堂の雪のトンネル、料亭のような大きな家、巨大な仏壇、セカンドカーの保有率が高いことなど、突出したもので富山をおもしろおかしく見せています。そんな部分のみが富山県のイメージとして全国に広がると、本当は、別におもしろくも何ともないのに、富山っておかしな所だということになります。つまりPRの仕方や見せ方が問題で、富山が実験劇場だとしたら、観客に対するプロモーションをうまくやって欲しいです。

ミヤラクモンについても同じで、彼らはいわば、変わり者。他と同じになりたくない人だから、PRをしてミヤラクモンを一般化してしまうと逆にその息の根を止めてしまうことになります。

今や、「なりふりかまわず走る」のは、時代遅れです。見識を持って見せる「なりふりかまいながら走る」のがおしよれな方法だと思います。山田 ジャーナリストとして言わせていただければ、私は、NHKの富山局長時代、地域ニュースを電波に乗せる努力をしました。マスコミの役割は伝えることで、演ずるのは県民です。富山の突出した部分も恥ずかしいと思わず、誇りとすれば良いと思います。

男性参加者 大きな仏壇やセカンドカー保有率の高いことなど、自慢に思っていた方がいい。イメージディレクターの皆さんは、富山をあんまり見とれないのではないですか。長澤先生、県立近代美術館はすばらしいですよ。県外の人



山田允夫氏



魚と話す日。

長澤 先程の補足ですが、大きな家がおかしいと言っているのは、特殊な例だからです。特殊が当たり前だと紹介されると、その誤解を解くのに大変な努力がいります。富山県がすごいと紹介されてヌカ喜びしてはいけません。ほんとにそうかと聞かれたら、ちゃんと受けて立って下さいよと言いたいわけです。

美術館については、地元の方々が思っている以上に世界的に評価されています。突出しているがゆえに、紹介されるし、期待もされています。

富山は頑張るようになってきましたから、これからは見る人の手当てもやらないといけません。観客がいないと元気は出ません。国際化の時にも出ましたが、富山は、インフラストラクチャー(社会共通資本)の整備ができていません。環境が整備されて初めて見る方も見せる方もその気になると思います。今日の議論では、富山はそのステージに移りつつあるという息吹を感じました。

## ●各分科会より

富山の女性は灰色のイメージだが、歴史上には、明るくはりきっていた人たちもキラ星のごとくいた。ただ、素晴らしい素質を持っているも、夫や子供、家のために自分自身の生き方をやめてしまう人が大半だ。(第二分科会より)

日本の社会は、利益があるかどうかを価値判断の基準にし、「遊び」は問題外のことになる。現在、日本の男性には余裕がない。社会的利益から自由な女性が、社会を見る角度を変えられる。(第二分科会より)

富山は、男尊女卑の世界で、女性を軽視している。女性は、家庭にしばられ、意見を述べられないし、外にも出にくい。(第二分科会より)



富山の女性には、生活の中の「演戯」がない。三世同居で、「見ざる、聞かざる、言わざる」を是としているからではないか。これからは、生活を本気で楽しむ必要がある。(第二分科会より)

- ① 「私はこう思う」を徹底、普及させる。
- ② 県民一人ひとりが広報マンになる。
- ③ 「一郎さん」「花子さん」など、ファーストネームで呼びあう。(第二分科会より)

現代は、老人、病者を差別する社会。女性には命を産み育む性として、彼らとかかわってほしい。それによって弱者が参加した健全な社会が実現する。(第二分科会より)

富山県人には、遊びと仕事は完全に違うという意識がある。飲むのもゴルフも「仕事で行く」という。これでは、仕事も遊びも貧しい発想でしかできない。地域の意識構造を変革し、「仕事の中で」「堂々と」遊ぶようにしたい。(第三分科会より)

何かやると、必ず県が音頭を取る。行政が「遊べ遊べ」というおかしな果だ。これからは、おもしろく遊んでいるところが勝ち。「かくあるべし」という地域づくりから脱却し、遊びの風土づくりを旨とすべき。(第三分科会より)



木崎さと子氏

# イメージアップの根本は、郷土愛

木崎 富山の人は、「暗い」と言われることを何よりも嫌いますが、「暗さ」の本当の意味は「深さ」。その中に北陸の良い伝統があります。私が家族に富山を紹介するときは、「生きるうえでの大切な部分をきちんとつかまえている人たちが住む所」という表現をしています。今はやりの明るいイメージにとられすぎて、過去の遺産まで否定すると大事なものを落としてしまう感じがします。暗いブルーは富山にふさわしいイメージカラーだと思います。

藤子A 「暗い」ブルーと言ったのは僕ですが、陰気というより、落ち着いたという意味でのブルーと言ったんです。ぼくらの持っている富山のイメージと、富山へ来たことのない人の持っているイメージは、違うと思います。「まんが道」の最初のシナリオでは、二人の父が鋳物職人と薬売りになっていました。外国人のフジヤマ、ゲイシャと同じで、県外の人は、富山じゅうに薬売りがいるというイメージを持っているようです。

男性参加者 東京から来て三年になります。富山県人は、決して暗くありませんが、楽しいものとかおいしいものを自分だけで楽しんで、他人に伝えようとしなくていいところがあると思います。他人もいっしょに楽しませてあげるといっつかいがほしいですね。色が暗いというのは、中身の問題。富山の人は、非常に恵まれた豊かな暮らしをしているのだから、これをイメージにしてほしいですね。大きな家や薬売りは、ひと昔前のイメージ。現在何を思っているのかを他の人にわかるように、形で表現してほしいです。

女性参加者 私も富山へ来て三年。骨を埋める決心をして家を持ちました。今回は、富山を知りたくて参加しました。富山は、とても温かくてすてきな所です。富山の人は、雪を嫌がっているようですが、私には、楽しみます。富山のイメージは、立山と雪。雪は大きな財産。イメージアップの材料になるのではないのでしょうか。雪を知らない人に雪かきツアーなどでどんなアピールすれば良いと思います。

山田 「大雪」というと、テレビのニュースには必ず富山の風景が出てくるが、イメージがよくない」と知事にいわれ、ニュースの出し方を「雪が降りましたが、生活は変わりません」というふうに変えました。みなさんの意識の中から雪と仲良くやっていくという意識が生まれれば一番いいですね。

辺見 結局、住んでいる方たちが住んでいる所を好きだなと思うことが大切ですね。人生の使い方を考えたり、学んだりすることがイメージアップにつながります。遊びと文化を切り離さずに、遊文化、遊遊たる文化と呼んでもいい。頭の切り替えひとつで時間の使い方も充実します。



金川正盛氏

す。そんな小さな変化、個人的な変化が、大きな変化につながるのではないのでしょうか。藤子A 住んでいる人が、ここに住んでよかったと思えば、外の人も一度は行ってみたいと思うのでは。住んでみたいと思う町が富山じゅうに氾濫すれば、あえてイメージアップをすることもないでしょうし。

竹村 郷土愛があれば、まちがいなく地域は活性化します。富山の豊かさ等、ふるさとのいい所を見つけて自信と誇りを持つていくことが必要です。提案したいのが余暇活動。楽しそうな地域活動の実例を新聞などがどんどん報道してみんなが楽しく暮らしていけばいいのではないのでしょうか。



竹村弘氏

## 竹村弘氏 講演「豊かさからみた地域格差」より

富山の生活度のイメージ……実質的な所得水準は上位グループにあり、住宅都市機能の整備及び暮らしの安心・安全はトップクラスにある。しかし、日々の時間のゆとりは少なく、週休二日制は遅れており、余暇活動は実に低調。つまり、大変暮らしやすい恵まれた生活環境の中で、時間的なゆとりが乏しくて、あまり楽しみもせず、ひたすらまじめに暮らしている。

リゾート開発は、舞台づくり……舞台の上で自作、自演、しかも自分が主役のドラマを演ずるのが、リゾート。リゾートをするのは、特定地域の特定の人から、あらゆる人に移っている。仕事も遊びもよくする積極的な生活スタイルを持つ「アングリス」が、リゾート時代の人間像。妻からの定年宣言……夫が定年になったとき、あるいは、子供が自立をしたときが、妻の定年。夫の定年は、終わりが、妻の定年は、自分の始まり。定年後の夫は、妻にたより、ベタベタくっついてはがれない「ぬれ落ち葉」。

地方開発には発想の転換が必要……地域開発の出発点は、地域格差の正しい認識。現にそこに住んでいる人が地域に誇りをもって、いきいきと暮らす。そうすれば住んでみたいと思う人を引き付け、出て行った若者を呼びもどすことができる。地域の地域による地域のための地方開発が必要。

イメージアップ……自分の地域に誇りをもっていきいきと暮らすこと。これが富山の一番のイメージアップ。

※イメージアップフォーラムに対するご意見、ご感想をお寄せ下さい。県庁広報課へお願いします。

### ●各分科会より

ミヤラクモンは、とても豊かな過ごし方。白い目で見てはいけない。ムダを敵視する県民性を克服し、自ら進んでミヤラクモンになろうという風土ができないか。(第三分科会より)

富山では、文学書が売れず、辞書、参考書、実用書等ハウツーものばかりとか。富山の人は、「これをやると○○につながる」という方向に集中している。(第三分科会より)

富山県人に足りないのは、ロマンと元気。ロマンとは、我慢。よそから来た者は、「旅のっさん」と呼ばれるが、変わったことをしても許してもらえない。(第三分科会より)



町で子供が遊んでいる風景がなくなった。大人以上に子供がむだのない生活をしているのは悲しい。(第四分科会より)

「音」も町づくりには大切。都会の喧騒からのがれてホッとするような静かな富山であってほしい。(第四分科会より)



PIN-UP TOYAMA



秋  
景  
記

撮影 松浦義一



秋、深まり  
樹木は鮮やかな朱に彩られ、  
錦に染まる  
万山、紅葉にかこまれ  
凜とした美しさを放つ。





# 腕にあいたの技術と 最先端の設備で、即戦力の養成

富山職業能力開発カレッジ

レポーター 岩城真紀子さん(滑川市)

富山県では、「だれでも、いつでも、どこでも」幅広い職業能力開発を得ることができるよう、富山職業能力開発カレッジ計画を策定し、富山県技術専門学院、そこに隣接する富山職業能力開発センター、現在建設中の富山地域職業訓練センターの三種の施設を中心にその体制の充実を目指しています。

## 高度技術社会の エキスパートを育む

### 《富山県技術専門学院》

私が最初に案内されたのは、富山市向新庄の殺風景な建設現場ではなく、その中に、どことなく建っている立派な建物、富山県技術専門学院でした。

今年四月に開校したばかり。まだ真新しい匂いの残る建物でした。校長先生から学院についての説明を聞いたのですが、エレクトロニクス、メカトロニクス、パソコン、LSI、IC等々という言葉が次々と飛び出し、最初からとまどってしまいました。しかし、これを機会に少しでも勉強しようと、決意新たに授業風景を見学しました。

ここは新規高卒者を対象に、自動車整備科、電子システム科、機械メカトロニクス科、事務オフィスオートメーション科、建築設備科が設置されています。どの科も現代の高度工業技術社会、高度情報社会に充分対応できる最先端の設備が整っていました。ズラリと並んだパソコン、マイコンによる機械制御、あつという間に製図してしまう装置など、普段目に触れないものばかりで驚きの連続でした。学科で学び、即実技で応用……この一体化し

た教育こそ、今企業が求める即戦力の育成につながっているのです。意欲満々の若者達が熱心に取り組んでいる姿を見て、とても頼もしく思いました。

## 新天地を求め、人の “技術の学び舎”

### 《富山職業能力開発センター》

次に案内されたのは、富山職業能力開発センター。そこでまず目についたのが、中庭のきれいな雪囲いでした。離職者、転職者を対象としたエクステリア造園科で、四月と九月の半年間学んだ方々の作品でした。美しく張られたロープと樹木が調和し、最先端の機械ばかり見てきて少々固くなっていた私の心も一度に和みました。

この他に配管科、事務科も設置されていて、離職者、退職者が新たな職につくための訓練を行っているそうです。また、中卒者を対象とした、金属加工科、インテリア工芸科もあり、それぞれ二年間の訓練で基礎からみっちり勉強するそうです。

各技能検定学科試験が免除されたり、授業料が無料というの魅力です。全員、自分の目的をしっかりと持って一生懸命なので、その

学ぶ姿は見ていて気持ちの良いものでした。

家庭に閉じ込められている私にとって今回のレポートは大変刺激になりました。中学卒業、高校卒業、あるいは退職、などという人生の転機をむかえている皆さん、是非一度ここをのぞいてみて下さい。きっと道が開けると思っていますよ。



ふるさと  
みる記

# 山田村

山田村は昔から渋柿の生産の盛んなところ。この特産の柿を利用して村おこしをと、村では四年前から柿酢の生産に取り組んできた。酒造をしていた赤星光信さん(51)も経験を生かして村おこしに一役買おうと、昨年からは柿酢づくりに加わった。

## 甘くてすっぱい山田の柿酢

柿酢づくり／赤星光信さん(51)



「今まで柿の加工品といったら正月の串柿くらいだったけれども、最近じゃ昔ほど串柿を食べる人もなく、大きな需要は見込めません。それで、果の食品研究所に相談したところできたのが柿酢なんです。まろやかな持ち味を生かすようにと、発酵させる時間・温度には細心の注意を払っています。」

こうしてできたのが、まろやかな酸味が特徴の「柿酢」(550ml入り)、甘くて飲みやすい清涼飲料水「柿酢ドリンク」(100ml入り)、クロロラなどの栄養が豊富な濃縮飲料「ヒネ方ガイゼン」(550ml入り)の三種類。どれもなかなか好評で生産量は年々増加。特に柿酢ドリンクは今年だけで一万六千本が消費されたという。そして全体では年間三千リットルを生産するまでになった。

「飲んでよかったといわれるものをこれからも作っていきたい。」という赤星さん。十月末から十一月にかけての柿酢づくりの本番を迎えて、今から最後の追い込みにかかる。

## 天高く、豚肥えてほしい秋

養豚／長應憲成さん(39)

山田村の山合いにある一軒の家。長應憲成さん



ん(39)はここで養豚を始めて十年。若い情熱を養豚に注いできた。

長應さんが養豚を始めたそもそのきつかけは自分の手で何かをやってみたい、それも、大好きな動物を飼育して暮らせたらということから。こうした希望が、かねてから畜産で山合いの活性化をはかろうとしていた村の思いと相まって夢が実現した。

現在、長應さんの養豚場では、約五百頭を飼育している。そのうち、メスの親豚は四十頭。一頭につき年間二十頭の子を産むので年間八百頭。それらを五、六カ月間で百十キロ前後に育てたのち出荷している。「どんな仕事にても苦勞はつきもの。清掃がいやだなどとはいっていません。それよりも、どうしたら一番早く太

## 山田村の概要

面積 40.91平方キロメートル

人口 2,187人(9月1日現在)

広いゲレンデをもつ牛岳スキー場があり、ふもとの牛岳青少年旅行村にはキャンプ場、山田村歴史民俗資料館がある。また、村の中心集落には、山田川に沿って、古湯山田温泉があり、夏はアユ釣りが楽しめ、また季節の山菜料理も味わえる温泉としてにぎわっている。



るのか、また病気に強くて質のいい豚になるのかという勉強の毎日ですよ。」と長應さん。輸入牛肉が自由化されれば打撃を受けるであろうといわれ、そのときに予想される豚肉離れを少しでもなくそうと、質の向上には特に力を注いでいる。

「豚肉というと牛肉に比べて質が落ちると感じている人が多いようですが、決して牛肉に引けをとりません。」

長應さんの夢は、メス豚を百頭に増やすこと。規模拡大に向けて長應さんは着実に前進している。

## ちよつと先取り、おいしいダイコン

牛岳高原ダイコン／名徳富蔵さん(70)

「九月から十一月にかけては目回っほど忙しいですちや」と語る名徳富蔵さん(70)。ちよつどの時期、名徳さんは特産の「牛岳高原ダイコン」の取り入れと稲刈りに追われ、てんでこ舞いの忙しさを迎える。

もともとはこのダイコンづくり、果営パイロット事業の一環として始まったもので今年で十五年目。牛岳の山裾を利用して作られるため「牛岳高原ダイコン」と命名され、九月から十一月くらいまでの端境期のダイコンとしてすっかり有名になった。今では、富山市場に出荷される地場産のダイコンのほとんどが山田村産のものだという。

「うちで一日の出荷量が千四百〜二千五百本。肉つきが豊かで味もよいと市場でも好評なんです。」

おいしいダイコンをつくるため、豚ふんを入れるなどの土地改良、排水、消毒の徹底など工夫を続ける名徳さん。さらに次のように抱負を語る。

「ダイコンづくりは私のいきがいの一つ。皆さんに安心して食べていただけるダイコンを作っていきたいですね。」

漬け物におでん、煮ものと、これからダイコンが食卓をにぎわす季節だ。





事故相談所開設日時

	相談場所	連絡先	相談日	相談時間
常設	富山県交通事故相談所 (富山市新総曲輪1-7 県庁2階)	(0764) 31-4111 内線759	日曜・祝祭日 を除く毎日	午前8時30分 から 午後5時 まで (土曜日は 正午まで)
巡回相談	黒部市中央公民館 (黒部市三日市1349)	(0765) 54-0278	毎月 第1月曜日	午後10時 から 午後3時 まで
	魚津総合庁舎 (魚津市新宿10-7)	(0765) 24-5311	毎月 第3水曜日	
	滑川市役所 (滑川市寺家104)	(0764) 75-2111	毎月 第1火曜日	
	新湊市役所 (新湊市本町2-10-30)	(0766) 82-8136	毎月 第3金曜日	
	氷見市役所 (氷見市丸の内1-1)	(0766) 74-8010	毎月 第2火曜日	
	小矢部市役所 (小矢部市本町1-1)	(0766) 67-1760	毎月 第4木曜日	
	砺波総合庁舎 (砺波市幸町1-7)	(0763) 33-5151	毎月 第2金曜日	

(注) 巡回相談の開設日が祝祭日のときは翌日、翌日が土曜日のときは月曜日となります。



県では、交通事故に関する様々な問題について、経験豊富な相談員が、無料で相談に応じています。示談のしかた、賠償額の算定、諸手続の進めかた等、交通事故に関することは何でも、お早めにご相談ください。電話での相談もどうぞ。

- 相談は無料です。
- 秘密は、固く守ります。
- 手紙・電話による相談もできます。
- 弁護士の助言も受けられます。

(毎週木曜日午後一時から四時まで)



納税には、便利で確実な「口座振替制度」があります。御相談は、お近くの金融機関で。

11月は、納税強調月間です。

県税でお困りのときには御相談を

個人事業税の納期のお知らせ

十一月は、個人事業税第二期分の納期です。お早めに、最寄りの金融機関又は県税事務所の窓口で、納めて下さい。

災害や盗難、病気やけがにより、著しい損失を受けた等、県税を納めることに支障がでてきたときには、所轄の県税事務所に御相談下さい。事情により納税が猶予されることがあります。県税でお困りのことがあれば、お気軽に所轄の県税事務所に御相談下さい。

新たな産業基盤の整備

現在、我が国の産業構造は、輸出型から内需志向型へと大きく変化しつつあります。富山県でも経済のソフト化、サービス化に対応した新しい産業を形成していかなければなりません。そのためには新たな事業を企画、研究できる環境の整備が重要となってきます。

そこで、まず報告書は、全国、世界の学者に富山を知ってもらうため、富山での学会開催を支援する機構をつくっていったらどうかという提言をしています。

また、研究開発部門を充実させるために、東洋医学研究所を企画、誘致したり業界団体が資金を出し合って大学等に寄付講座を設け、優秀な研究者を富山に誘致したらどうでしょうか。

さらに最近活発に研究されているバイオの研究を充実させ、「バイオの富山」を形成していったらどうかという提言もあります。

また一方では、職業人の能力を高めるための中核施設として、また、海外技術研修員の受入れ施設として、「日本海高度能力開発システムセンター」を提言しています。

21世紀の農業の形成

21世紀農業を形成するため、水と土に根ざした「訳のある米」(例えば、自然米、イオン米、漢方薬米など)を新たに創造するとともに、現在課題となっている生産の低コスト化を研究するための実験農場を設置したらどうでしょうか。

また、チューリップの里富山をさらに充実し、世界から人が集まるような一大球根公園をつくったらどうかという提言もあります。

新たな産業の複合化(コンプレックス)

21世紀への新たな産業の形成として、従来の産業分類を超え、製造業だけでなく、サービス業、研究開発、リゾート産業まで取り込んだ新しい産業群を形成していったらどうでしょうか。

「くすりの富山」のイメージや漢方薬等の研究を生かした「健康・医療産業」、富山の優れた住環境とアルミ建材等の産業の蓄積を生かした「住文化産業」などの産業群形成を提言しています。

富山へ人を呼ぶシステム

今後のリゾート地は、水準の高いものが求められ、富山でも特色を生かしたリゾート地を形成する必要があります。そこで、全国から富山へ来て心身の総チェックを受けられるような健康医療リゾートや芸術チャレンジリゾート、手づくり体験リゾート、大人が楽しめるようなスキーリゾートなどを整備していったらどうでしょうか。

また富山に人を呼ぶために、富山の素晴らしさ、おいしさなどを体験できる「とやまショップ」を大都会に開設したり、富山県出身の漫画家藤子不二雄のまんがキャラクターを使った大型レクリエーション基地「ドラえもんランド」を建設したらどうかというものや、富山県人会などのメンバーを「とやまPR大使」に任命したらどうかという提言などユニークなものいろいろ盛り込まれています。

報告書を読みたい方、21世紀の富山県づくりに意見や提言をお持ちの方は県庁企画調整室総合計画班(☎0764(31)4111)まで、ご連絡下さい。

とやま21世紀

デザイン21 ⑤

「未来産業の構築」から

富山の21世紀が、どんな社会になるのか、たくましく21世紀を生き抜くにはどうしたらよいか。県庁の職員で構成する「とやま21世紀研究会」が研究した報告書「とやま21世紀への戦略(とやまデザイン21)」の概要を前回に引き続いて紹介します。



# 県政の動き

9月11日～10月10日

- 9月11日 第26回富山県身体障害者体育大会（水泳競技）
- 9月12日 9月定例県議会（～27日）  
国際文化センター開館一周年記念講演
- 9月17日 富山県高齢者ゲートボール大会  
国際交流の集い（～18日）  
交通安全県民会議
- 9月18日 イメージアップフォーラム
- 9月20日 昭和63年度招致外  
国青年歓迎式典



- 9月22日 少年の主張富山県大会
- 9月29日 上市川改修事業完成式  
富山県社会福祉大会  
第16回花と緑の大会
- 9月30日 常願寺川公園堤防  
道路完成式



- 10月1日 県営かんがい排水事業庄西大井川地区完工式  
とやまメッセウルトコンGRESS'88（～4日）  
とやまテクノフェア'88（～4日）



富山県社会教育大会



- 10月2日 富山県生涯学習カレッジ開学式
- 10月6日 '88県民オーケストラ合同演奏会
- 10月8日 婦人国際交流フェスティバル
- いきいき富山健康と長寿の祭典（～9日）  
第4回富山県育樹祭  
工業技術センター富山研究所起工式

## シンポジウム

### きれいな川をとりもどそう 生活排水を考える シンポジウム

家庭でできる水質浄化対策について考えます。

日時／十一月十二日(土) 午後一時半～  
場所／新湊市中央文化会館小ホール  
※詳しくは、県庁公害対策課へ

### 活力あるゆとり 創造社会・職場づくり 推進大会

日時／十一月十四日(月)午後一時～六時  
場所／教育文化会館ホール  
内容／シンポジウム  
週休二日普及キャンペーン「橋  
本実加子コンサート」  
講演（多湖輝氏）等

※詳しくは、県庁労政課へ



## 住宅関連資金融資案内

### 住みよい家づくり 資金融資

融資限度額 新築三百二十万円  
改良・中古二百万円  
利率 年五パーセント  
償還期間 新築二十年以内  
改良・中古十年以内  
対象 老人同居住宅、耐雪住宅、断熱  
構造化住宅、合併処理浄化槽住  
宅等

### 地域優良木造住宅の 割増融資

対象 住宅金融公庫の融資と県の「住  
みよい家づくり資金」の融資を受け、  
耐雪型でかつ断熱構造化の木造住宅を  
建設する場合。  
割増額 最高二百万円。  
※詳しくは、富山県住宅供給公社  
(☎0764・32・5131)  
または、県庁建築住宅課へ。

## 昭和63年 11月街頭献血日程

日	曜	場 所	時 間
3	木	山田村中央公民館前	10:00～15:30
		福野町産業文化会館前	10:00～15:30
		高岡市民会館前	10:00～15:30
5	土	富山市「アビタ」ショッピングセンター前	10:00～16:00
		高岡駅前	10:00～15:30
6	日	婦中町古里公民館前	10:00～15:30
		砺波市農業協同組合本所前	10:00～15:30
8	火	朝日町職工会館前	10:00～15:30
10	木	新湊市役所前	10:00～15:30
12	土	富山西武前	10:00～16:00
		高岡市ジャスコ高岡店前	10:00～15:30
13	日	富山西武前	10:00～16:00
		福光駅前	10:00～15:30
15	火	婦中町役場前	10:00～15:30
18	金	小矢部市役所前	10:00～15:30
19	土	魚津市サンプラザ前	10:00～15:30
		高岡駅前	10:00～15:30
20	日	富山市中央通り	10:00～16:00
24	木	福岡駅前	10:00～15:30
26	土	富山駅前	10:00～16:00
		高岡駅前	10:00～15:30
27	日	高岡駅前	10:00～15:30

### 自然がもつとわかりやすくなった 自然博物館センター(ねいの里)の 展示室が新しくなりました。

小動物や昆虫をあらゆる角度から  
観察できるボックス、四面ガラスの  
サンショウウオ観察水槽、石器展示  
ケース、昆虫標本などを新設。自然  
がさらにわかりやすくなりました。こ  
こで自然の勉強をしたら野外で観察  
をしよう。

自然博物館センター(ねいの里)  
婦中町吉住 ☎0764・69・5252

## カルチャー&アート

### 埋蔵文化財センター

### 土偶 — 縄文人の こころ

県内外の土偶と関連資料を展示し、  
土偶にこめられた縄文人のこころや風  
俗を探ります。

会期／十一月二十八日まで(日曜・祝  
日七開館)  
入館時間／九時～十六時半  
※詳しくは、埋蔵文化財センター  
(☎0764・34・2814)へ



## 県立近代美術館

### 現代日本美術の動勢 — 絵画PART・2



日本の現代美術の様相を継続的に紹  
介するシリーズ企画の第二回展。前回  
の具象表現の絵画に続いて、今回は抽  
象的表現の作品七十五点を紹介します。  
会期／十一月十一日まで  
料金／一般七百円、高大生五百円、小中  
生三百円(二十人以上団体割引)  
※詳しくは、県立近代美術館  
(☎0764・21・7111)へ

# 豊穰を占う神事 綱引き

十一月に緋繩ヒイロという綱引き行事が催されていた。町内の若衆が近くの山から藤ツルを伐ってきて、長さ約三〇メートルほどの綱を作り、約一メートル余のマンネン棒マンネン（松の木）を綱の真ん中に立てて各町内対抗の綱引きをしたもので、勝敗によって翌年の豊凶を占う神事であった。

海の幸を占う場合にも綱引きが行われた。新湊市放生津町でも、江戸時代から明治の初年ごろまで、竹の棒に漁綱を巻きつけた太い綱を町内ごとに作り、青年や子供たちが中心になって威勢のよい囃子ハシに合わせ勝負し、漁業の吉凶を占ったのである。



息子の走りに一喜一憂、人の振り見て大笑い、孫に手引かれ大汗だくの住民運動会。運動会は、キンモクセイの香りとともに秋を彩る風物詩である。

そして、この運動会において必ずといっていいほど行われるのが綱引きである。綱引きは、今や選手を争う程の代表的な団体競技に発展している。

しかし、この綱引きが、古来から相撲とともに勝敗によって吉凶を占う年占いの神事の一つとして行われていたことはあまり知られていない。

婦負郡八尾町では、大正初年ごろまで、

我々の身の回りの生活の中に、先人の素朴な心情が生きていていることを改めて感ずるものである。

文・米原 寛



刊行の  
『とやまの女性史』  
—自立へのあゆみ—

戦後四十数年にわたる富山県の女性のあゆみを集大成しました。次の五章に分けて、地位向上をめざして努力する女性の姿などを描きます。

第一章 苦悩の戦後生活を生きぬく

第二章 目ざめる婦人たち

第三章 社会の変貌と自立への道

第四章 真の男女平等をめざして

第五章 婦人団体のあゆみ

ただいま予約受付中です。

● 刊行予定／昭和六十四年二月末

● 体裁／A5版・四五〇頁(予定)

● 予定価格／二千元

▼ 問い合わせは、県庁婦人青少年課内 富山県婦人団体連絡協議会へ

## みなさんの相談窓口

県政については	消費生活については	相談110番
<b>県民相談室</b> 富山市新総曲輪1-7(県庁内) ☎(0764)31-4111(代) 31-3131(県民電話)	<b>消費生活センター</b> 富山市安住町7-18 安住町第一生命ビル内 (一般相談は) ☎(0764)32-9233 (金融相談は) ☎(0764)33-3252	○暴力団に関するもの ○家庭問題や民事に関するもの ○困りごと ○覚せい剤、悪質商法、公害に関する苦情や相談 ○過激派(極左暴力)集団に関するもの ○その他警察に対する要望や苦情 など、どんな相談にも応じます。 ☎(0764)42-0110 (ヨニフルイヒトナシ)
<b>高岡地方県民相談室</b> 高岡市赤祖父211(総合庁舎内) ☎(0766)21-9411	<b>消費生活センター高岡支所</b> 高岡市本丸町7-1 本丸会館内 ☎(0766)25-2777	
<b>魚津地方県民相談室</b> 魚津市新宿10-7(総合庁舎内) ☎(0765)24-5311		
<b>砺波地方県民相談室</b> 砺波市幸町1-7(総合庁舎内) ☎(0763)33-5151		

## 60 TV

テレビ広報

●北日本放送 毎週日曜日 AM8:00~8:30  
「こんにちは富山県です」  
11/6 ふれあいスポーツ~地域スポーツの日~  
11/13 あなたこそが富山の顔~コロンブス計画~  
11/20 生活排水を考える~家庭でできる生活排水対策~  
11/27 「富山賞」受賞者に聞く  
12/4 富山の文化財

●富山テレビ 毎週日曜日 AM9:00~9:30  
「110万人のひろば-クイズ/フォーカス・イン」

## RADIO NEWS PAPER

ラジオ広報

●FMとやま  
「ふれあいホットライン」  
県内各地からホットな話題をクリアなサウンドでおとどけします。  
毎週月~金曜日 AM9:30~9:35

新聞広報

●北日本、富山、読売、北陸中日  
毎月第2土曜日  
「県からのお知らせ」  
毎月最終土曜日  
「みんなの県政」  
●朝日、毎日  
毎月第2、最終土曜日  
「県からのお知らせ」

見てください・聞いてください、県からのホットニュース

## 編集後記

★秋といえばスポーツの秋。取材にいった山田村では、その日は地区のお年寄りが集まっていた運動会のまっ最中。玉入れ、リレーなど、やっている方はもちろん一生懸命。見る方も思わず我を忘れる。こういうのってやっぱり古いも若きも関係ないですね。

★とある本屋で旅行者らしい夫婦の会話が耳にりました。「富山は嫌いだ。二度と来るもんか。」と夫。とりなす妻。何があったのかはわかりませんが、夫にとって富山はずっといやな所として残るのかと思うと悲しくなりました。悪い所、いやな所もあるでしょうが、いい面も知ってほしかった。住んでいる人にとっても同じで、地元のこととは案外知らないもの。もともと富山を知れば、もつとおもしろく暮らせるのでは。富山をもつと知りたい方、ご連絡下さい。また、イメジアップフォーラムに対するご意見、ご感想もお聞かせ下さい。

富山の良い所、悪い所、何でも結構です。





心に触れてみませんか。

——この機会にあなたも伝統的工芸品の

「新しい」「美しい」「暖かい」

業が行われます。

各種の事

今年も国・県・産地が一体となった

の発展を目指しています。

指定を受けています。毎年十一月を伝統的工芸品月間とし、作り手と使い手のふれあいを通した伝統的工芸品の一層の普及と産業としての発展を目指しています。

11月は伝統的工芸品月間です

# 暮らしの中に潤いを

国では、このような工芸品の中から「伝統的工芸品」を指定するとともに（県内では高岡銅器、井波彫刻、高岡漆器、越中和紙及び材料として庄川挽物木地が

私たちの身の回りには、長い歴史と風土に育まれた工芸品が数多くあり、暮らしに豊かさと潤いを与えています。これらは、美術品とは異なり、私たちの日常生活の中で使われ、磨かれてきた日用品です。その最大の魅力は、手作りのものみが持つ「暖かみ」であり、それは実際に手にとってみてこそ感じられるものです。

